

第1回 新幹線等の函館駅乗り入れに関する調査業務に係る
プロポーザル審査委員会 議事録

日 時 令和5年7月14日（金） 14：15～15：00

会 場 函館市役所8階公平委員会室

出席者 委員：奥平委員，萩原委員（web参加），三浦委員（web参加）
（岸委員および櫛引委員は欠席）

事務局：企画部新幹線対策担当 升田課長，江藤主査，小西主任主事

1 開 会

- ・事務局から第1回審査委員会の開会を宣告

（1）委員会成立の要件の確認

- ・事務局から過半数の出席により委員会成立を報告

（2）函館市挨拶

- ・新幹線対策担当課長から挨拶

（3）委員の紹介

- ・事務局から委員を紹介

2 議 事

（1）委員長の互選について

- ・事務局から本件について意見を求めたが，特に発言なし。これを受け，事務局から奥平委員を委員長とすることを提案し，全会一致で決定された。
- ・職務代理者は，後日，委員長により指名することが確認された。

（2）プロポーザル方式の審査方法について

- ・事務局から事務局案について説明

【概要】

- ・企画提案書についてメールによる事前のヒアリングを実施するほか，第2回審査委員会のプレゼンテーション当日に口頭での質疑応答も実施する。
- ・メールによる事前のヒアリングの回答は，第2回審査委員会に当日配付またはメール送付を想定している。
- ・第2回審査委員会当日のプレゼンテーション終了後，提案書およびヒアリングの結果を踏まえ，評価基準に基づき評価いただく。
- ・評価点の合計が最も高く，かつ70点を超過している事業者を最適提案者として選定いただく。

【質疑】

委員	企画提案書のボリュームはどの程度と想定しているか。
事務局	現時点で想像がつかないが、提案書が多数の場合は書類審査を実施し、ヒアリングの件数は最大で5件程度とする予定である。
委員	提案募集事業者の要件について、1者単独での提案のみを想定しているのか。
事務局	1者による提案のほか、JV等、複数の事業者によるグループ提案も可能としている。

(委員間討議)

- ・出席委員から特に発言はなく、審査方法は原案のとおり全会一致で決定された。

(3) プロポーザル方式の評価基準について

- ・事務局から事務局案について説明

【概要】

- ・第2回審査委員会の当日に、事前のメールによるヒアリングや当日のプレゼン、質疑応答を踏まえ、評価基準に沿った採点をしていただく。
- ・「企画提案に関する項目」では、仕様書の内容を適切に理解された提案内容となっているか、整備費や旅客見込者数の予測調査など、4つの調査項目について、それぞれ適切に実施できる調査手法となっているか、実施スケジュールが妥当であるかなどの観点から、合計90点を配点。
- ・「提案価格に関する項目」では、各調査項目に対して必要な金額が適切に計上されているかなどの観点から、5点を配点。
- ・「事業者に関する項目」では、適切な人員体制を有しているかという観点から、5点を配点。
- ・これらの各審査項目について、「極めて良好であれば配点の1倍」、「やや不十分であれば0.4倍」などの補正を行い、合計を審査委員数で割り返し、得点が最も高く、かつ70点以上の提案者を最適提案者として選定していただく。

【質疑】

委員	北海道新幹線並行在来線対策協議会の資料の分析調査は、協議会の検討結果とは別に、市としても改めて調査を行うという形になるのか。
事務局	協議会資料の結果が新幹線の乗り入れによりどのような影響を受けるのかを調査するという主旨である。
委員	今後、本件のような大型インフラ整備においては、建設段階から稼働後に至るまで、自然環境への影響・配慮といった観点も大事になってくると考えるが、この辺を本調査で検討される余地はあるか。
事務局	本調査は、乗り入れが可能かどうかについて検討するとの観点から、必要な調査項目を定めたものであり、自然環境への影響等については項目として想定していないところである。
委員	函館市としての評価の視点、考え方のようなものはあるか。 企画提案書の内容について何を軸にして評価すべきか、一定程度、方向性が示されているほうが明瞭な形で評価できるのではないか。
事務局	本プロポーザル審査では、多岐にわたる調査内容の提案について、本評価基準に基づき、各自の判断により審査いただきたいと考えている。 調査内容等で捉えにくい部分などがあれば、審査にあたり、もう少し明瞭となるよう検討したい。

(委員間討議)

- ・出席委員から特に発言はなく、評価基準は原案のとおり全会一致で決定された。

3 その他

- ・事務局から今後の日程等について事務連絡

4 閉 会

以上